

第10次高松市交通安全計画パブリックコメントについて

		寄せられた御意見	寄せられた御意見に対する考え方
1	①	一般社団法人日本自動車連盟が実施した「都道府県別交通マナーアンケート」の結果が公表されているが、香川県が最悪とのことである。2年前に首都圏から転居してきたが、今まで経験したことがないようなマナーの悪い事例に2回経験した。香川県出身者で関東でも生活歴がある人の話でも香川の交通マナーの悪さは定評があるとのことである。	本計画の「道路交通の安全」の対策の柱で「交通安全思想の普及徹底」を掲げており、今後とも、心身の発達段階やライフステージに応じた段階的かつ体系的な交通安全教育を実施するなど、交通マナーの向上に向けた取組を一層推進してまいります。
	②	道路構造について、片側2車線道路の中央分離帯がかなりの比率で欠陥構造である。つまり、片側2車線であれば、中央分離帯は車のすり抜けができない構造であることが望ましいが、簡便な赤色ポールが多く、また、間隔の広いものが多いため、やたらその間をすり抜ける車が多い。この道路構造が事故発生率をアップさせている。	本計画の「道路交通の安全」の対策の柱で「道路交通環境の整備」を掲げ、事故の発生割合の大きい幹線道路の区間等で、県公安委員会や道路管理者等関係者が連携して、中央帯の設置等に取り組むとしており、いただいた御意見も参考に、今後とも、事故抑止が図られる道路整備の推進に努めてまいります。

		寄せられた御意見	寄せられた御意見に対する考え方
2	①	一般的な計画でなく、高松市の課題を解消するような計画にしてほしい。	本市においては、近年、高齢者の交通死亡事故が多発しており、また、自転車利用者のマナー向上が喫緊の課題となっておりますことから、本計画では、「高齢者交通事故防止対策の推進」と「総合的な自転車利用環境の充実」に重点的に取り組むとしており、今後、警察等関係機関とも連携を強化し、計画の着実な推進を図ってまいります。
	②	国道11号線(高架下)について、縁石を乗り越え、橋脚に衝突する事故が多いため、中央分離帯に縁石(C種 h=250)+ガードレール(A種orS種)を設置してはどうか。事例として、赤磐市付近の山陽道下が参考となると思う。	本計画の「道路交通の安全」の対策の柱で「道路交通環境の整備」を掲げ、事故の発生割合の大きい幹線道路の区間等で、県公安委員会や道路管理者等関係者が連携して、中央帯の設置等に取り組むとしており、いただいた御意見も参考に、今後とも、事故抑止が図られる道路整備の推進に努めてまいります。
	③	高齢者は、足が上がりず、インターロッキングでは、つまづき易いし、点字ブロックも輝度差が少ないように思われるため、「人優先」、「高齢化社会」の到来を考慮すると、まず、市役所、県庁付近からでも、バリアフリーにすべきではないか。	本計画の「道路交通の安全」の対策の柱の「道路交通環境の整備」の中で、「高齢者、障がい者等の安全に資する歩行空間等の整備」を掲げ、駅や公共施設等の周辺を中心に平坦性が確保された歩道の整備を推進することとしており、今後、道路管理者と連携して、歩道のバリアフリー化に取り組んでまいります。

		寄せられた御意見	寄せられた御意見に対する考え方
2	④	県警で赤枠の止まれを表示しているが、反射材着用促進の記事などを見ると、白色より赤色の服が目立たないとされていることから、交差点の停止線の幅を広くしてはどうか。	交差点の停止線の幅については、「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令」(昭和35年12月17日総理府・建設省令第3号)により決められておりますことから、当該命令の範囲内での標示となりますが、いただいた御意見も参考に、今後とも、県公安委員会や道路管理者等関係者と連携して、道路標識・標示の高輝度化等、事故抑止が図られる道路整備の推進に努めてまいります。
	⑤	横断歩道など、水が溜まらないよう隙間をあけているが、カラー舗装が増えると、オートバイや自転車が水が溜まった箇所で滑りやすく、スリップ事故が増えないか心配である。	交差点のカラー舗装化は、交通事故抑止対策に有効であると考えておりますことから、本計画においても、県公安委員会や道路管理者と連携して、交差点のカラー舗装化を推進することとしております。いただいた御意見については、塗装方法等、カラー舗装の施工時の参考とさせていただきたいと考えています。

● 寄せられた御意見については、趣旨を変えない範囲で簡略化したり、文言等の調整をしています。